＜枇杷葉温圧灸療法の概要＞

東京医療福祉専門学校：鍼灸マッサージ教員養成科　大内晃一

枇杷葉温圧灸の歴史

仏教医学による約 3000 年前からの民間療法（びわの木を「大薬王樹」、葉を「無憂扇(むゆうせん)」と言われていた。）

○　約 1500 年前（奈良時代）に日本に伝来。

（聖武天皇時代、施薬院で枇杷葉療法が行われていた形跡がある。）

◎　江戸時代に枇杷葉湯が売られており、元禄時代初期に枇杷葉温圧が歴代濱田家祖先より発祥（現在に至るまで約３００年の歴史がある。）

※古典でもびわの威力に触れている。

『本草綱目　李時珍（明）　』

『大般涅槃経』（産後の口乾、煮汁を飲めば渇疾に主効あり。肺気熱咳および肺風瘡、胸、面上の瘡を治す。胃を和し、気を下し、熱を清し、諸毒を解し、脚気を療ず。）

枇杷葉温圧灸の特徴

☆　温熱刺激　☆ 圧刺激

△　(薬効：アミグダリン等)　※　枇杷の木全て（枝、葉、根、茎）に薬効がる！

・アミグダリン（ビタミンＢ$_{17}$）：血液浄化作用　シアン化合物⇒知覚神経の鎮静

・サポニン：去痰作用・コレステロールの吸収抑制

・タンニン：胆汁排泄促進作用・鎮痛作用・血管透過性亢進抑制作用・抗潰瘍作用

・ロシアニジン・オリゴマー　：細胞のアポトーシス

※　枇杷葉温圧灸による薬効に関するエビデンスは現段階では明確には言及できない。

枇杷葉温圧灸の主な適用疾患

・　運動器疾患：五十肩・リウマチ・関節疾患ｅｔｃ．

・　消化器疾患：便秘、下痢・胃潰瘍・肝炎ｅｔｃ．

・　呼吸器疾患：喘息・風邪ｅｔｃ．

・　皮膚科疾患：湿疹・蕁麻疹ｅｔｃ．

・　婦人科疾患：月経困難症・子宮筋腫・更年期障害ｅｔｃ．

・　耳鼻咽喉系疾患：中耳炎・眩暈、アデノイドｅｔｃ．

・　眼科疾患：眼精疲労・白内障・緑内障ｅｔｃ．

・　泌尿器疾患：前立腺肥大・膀胱炎・ネフローゼｅｔｃ．

・　循環器疾患：血圧異常・心臓神経症・動脈硬化症ｅｔｃ．

・　神経疾患：神経痛（座骨神経・三叉神経）・神経麻痺ｅｔｃ．

・　小児科疾患：小児喘息・夜尿症ｅｔｃ．

※注意を要するもの⇒知覚鈍麻・悪性腫瘍・循環障害・出血傾向